

# 京林大だより

No.70



絵：卒業生 熊走君

## 就業に向けたキャップストーン研修を実施



研修先で、伐倒・測量・機械操作など様々な実務研修を受ける林大生

学校では学べない現場ならではの技術を学ぶことができた。

### 研修後の 学生の声

体調管理・自己管理をしっかりしていきたい。

自分の知識の少なさを実感した。地質や植生などの深い知識も必要。

自分が伐倒した木を製材することにやりがいを感じた。

山の踏査について深く学べ、充実した研修を受けることができた。

京林大のキャップストーン研修は、学校の実習だけでは習得が難しい実践的な能力の養成と、実社会への適応力の向上のため、2年生が府内外の事業体（1人2事業体）にお世話になり、各1ヶ月間（計2ヶ月間）の実習を受ける研修のことをいいます。

本年は、府内外の19事業体（森林組合、民間林業事業体、製材所、NPO法人など）にお世話になり、各事業体の方々の御指導のもと、様々な実務作業や社会人としての規範等を学ぶことができました。

帰ってきた学生たちは、見違えるようにたくましくなり、少なからず自信を持てたようでした。

また、研修で得られた多くのことを報告会で発表し、1年生は次年度に向けた意識の醸成に、2年生は就職先の検討に役立てました。

研修生を受け入れていただきました事業体の皆様におかれましては、大変お世話になり、本当にありがとうございました。



報告会の様子

## 「第8回林大祭」 を開催します！

日頃お世話になっている地域の皆様や林業関係者の皆様と林業大学校との交流を目的とした、「第8回林大祭」を開催します。

クリスマスリースづくりやロープアスレチック、各種模擬店など、お子様にも楽しんでいただけるコーナーがたくさんありますので、ご家族おそろいで林業大学校にお越しください。

- ・日時：12月3日(日) 10時～16時
- ・場所：京都府立林業大学校
- ・内容：模擬店・体験コーナー・木工品販売ほか



昨年度の様子(模擬店、ロープアスレチック)

## 今月の授業参観

### 『森林計画演習』

1年生は毎年10月「三行脈型濃密実習」に組みます。3班に分かれて行う少人数のより濃密な実習で、その一つが『森林計画演習』です。

森林計画を実行していく上で、まず森林の現在の状況を知る必要があります。その現況を森林調査により把握し、計画的な手入れの手法検討に役立てます。

近年では林業でもICT化が進み、ドローンや衛星による測量の技術が導入されつつありますが、林大生はまず従来型の方法で技術習得。基礎的な方法が理解できれば、先進的な技術の習得がスムーズに進み、きっと次に繋がるはずです。



## 校長室より

### 全国林業大学校対抗伐木選手権 現在2連覇中！

#### 校長 柴田 繁

本校では、就業体験を通して即戦力となる実践的な知識と技術を身に付けるとともに、実社会への適応力の向上を図るため、2年生は8月下旬から10月下旬までの約2ヶ月間、キャップストーン研修に行ってきました。

この研修や日頃の授業で身に付けた知識と技術が確かなものであることは、毎年、参加している全国林業大学校対抗伐木選手権で、現在2連覇していることが証明しています。

本校と長野県林業大学校と岐阜県立森林文化アカデミーの3校は、各校の教員や学生の交流を通じて技術者養成教育の充実・向上を図るため、平成27年11月に協定を結び、各校持ち回りで交流会と伐木選手権を開催しており、本年は11月16日(木)から17日(金)の2日間、長野県林業大学校で開催される伐木選手権に参加します。

伐木選手権は、丸太の薄切りや枝払い、伐倒技術の正確さと安全性等について競い合いますが、京林大は、現在2連覇中で、学生達も3連覇に向けて練習に熱が入っています。

他校は、この選手権のための事前練習に力を入れていますが、京林大は、選手権(競技)のための練習ではなく、実際の林業現場での2ヶ月間におよぶキャップストーン研修や、学校の授業で身に付けた技術と安全意識で大会に臨み、過去2連覇を達成しています。これは、林業現場での実践的な研修や実習を重視している本校の教育カリキュラムにより、学生達が確かな技術と安全意識を身に付けていることが証明された証でもあります。

現在、日本には林業大学校が24校あり、各校がそれぞれの特色を生かした授業を実施しています。京林大も、授業内容の更なる充実等により魅力ある学校づくりに取り組み、これからも京都の森林・林業を担う人材の育成に努めていきます。

長野県林大での選手権に参加する京林大の学生達に、大きなご声援をお願いいたします。